

郷土博物館アートミュージアム設置の方向性

設置場所の検討

郷土博物館館内に「常設的なアートミュージアム」を設ける場合の設置場所の候補は、次のとおり。

候補①：常設展示室内

近現代コーナー（約80㎡）が候補。展示室内の一部改修と近現代展示コーナーの展示再編が必要となる。大規模施設改修（平成30・令和元年度）時の展示の一部リニューアル実施から、まだ日が浅い。当該リニューアル時の展示コンセプトが来館者に定着してきた中での再度の展示見直しとなる。常設展示室と同区画内にある附属的施設として、「常設的なアートミュージアム」のイメージ付けが行いやすい。

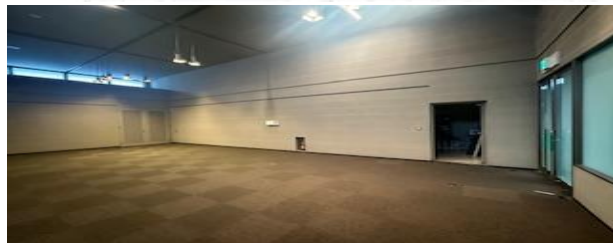
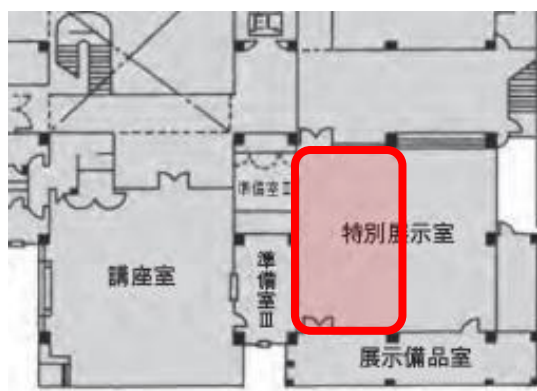
常設展示室改修範囲イメージ（赤枠内）



候補②：特別展示室内

特別展示室を半分に仕切ったスペース（約65㎡）が候補。可動式のパーティションや展示ケース、照明などにより対応することとなる。特別展示室を半分に仕切る仕様になるため、企画展開催や博物館授業実施の際に、展示や体験活動などに充てるスペースが大幅に縮小することになり、年間通しての展示事業及び博学連携事業に少なからぬ影響が生じる。

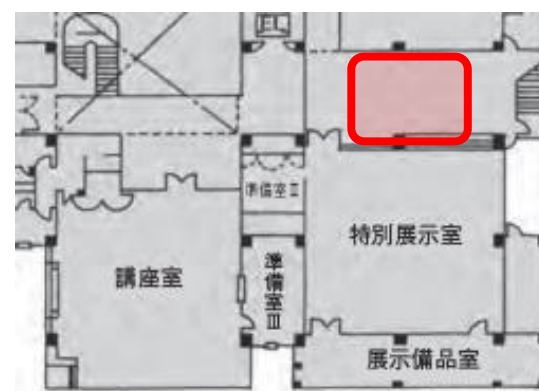
特別展示室改修範囲イメージ（赤枠内）



候補③：特別展示室前ロビー

3つの候補の中では、対象面積（約35㎡）が最も狭い。ロビー奥に展示してあるプラネタリウム投影機の撤去が必要となる。現状では単体のロビー展開催のほか、企画展などの開催時に導入展示の会場として特別展示室と一体的に利用する頻度も高いことから、当該ロビーが使用できない場合、年間通しての展示事業に少なからぬ影響が生じる。

特展室前ロビー改修範囲イメージ（赤枠内）



想定されるアートミュージアムの機能

○貸しギャラリー（一般貸し）機能

○市所蔵美術作品の常設展示機能

○アートミュージアム展示事業全般のコーディネート機能